

令和八年(2026年)を迎えるにあたって(新年のご挨拶)



新年あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願い申し上げます。

(2025年を振り返って)

2025年は、ユネスコに大きな変化が訪れた年でした。

まず、ユネスコ事務局長の交代です。2期8年を務めたフランス出身のオドレー・アズレー第11代事務局長が退任し、後任にエジプト出身のハリード・エル・アナーニー氏が第12代ユネスコ事務局長に選出されました。アラブ・グループから初めてのユネスコ事務局長です。エル・アナーニー氏はエジプトで遺跡・観光大臣を務め、昨年11月に正式オープンした大エジプト博物館プロジェクトでの協力を通じて日本との関係も深い人物です。

昨年7月には、第二次トランプ政権下の米国がユネスコ脱退を表明しました。米国がユネスコを脱退するのは3回目です。脱退が発効するのはユネスコ憲章上は本年末ですが、昨年からは既に米国は分担金支払いをストップし、ユネスコの会議にも参加を取りやめています。こうした米国の対応はユネスコの活動に大きな影響を与えています。

日本とユネスコの関係について言えば、2025年は日本が1950年12月にユネスコ加盟申請を行ってから75年の節目の年でした。これを機に、日本政府代表部でも「日本のユネスコ加盟75周年」企画を開始し、様々な行事を行なっています。昨年6月24日に日本のユネスコ加盟当時の映像を上映した記念レセプションを開催したほか、9月にはユネスコ本部内にあるイサム・ノグチ氏が設計した「平和の庭」につ

いて、日本からの造園専門家の協力を得て修復事業を実施しました。11月20日には、1945年11月16日にユネスコ憲章が採択されてから80周年を迎えたことと合わせた記念レセプションを開催しました。このレセプションには、松浦晃一郎第9代事務局長とエル・アナーニ新事務局長が出席し、イリーナ・ボコバ第10代事務局長、アズレー前事務局長からもビデオメッセージが寄せられ、存命中のユネスコ事務局長全員からのメッセージが寄せられた記念すべき行事となりました。

その他、日本関連では、12月のインド・ニューデリーでの第20回無形文化遺産保護条約政府間委員会において、日本から申請した3件（「伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」、「和紙：日本の手漉和紙技術」、「山・鉾・屋台行事」）の拡張登録が決定されました。

（2026年の抱負）

2026年はユネスコにとっても、ユネスコにおける日本外交にとっても、重要な年です。

エル・アナーニ新事務局長にとっては就任してから最初の一年です。新体制を早急に整え、ユネスコの改革を着実に進めることが期待されています。日本としても新事務局長の取り組みに協力を惜しまないつもりです。

ユネスコでの日本関連案件としては、本年7月の韓国・釜山での世界遺産委員会において「飛鳥・藤原の宮都」が、12月の中国・廈門での無形文化遺産保護条約政府間委員会において「書道」が、それぞれ新規登録候補として審議予定です。関係者の方々と緊密に連携しながら、登録実現に向けてしっかり取り組んでまいります。

今年は、「日本のユネスコ加盟75周年」の締めくくりの年です。75年前の1951年6月21日のユネスコ総会で承認され、7月2日に正式加盟を果たして以来、日本は一貫してユネスコの活動を支援してきました。昨年の第43回ユネスコ総会では、日本は加盟以来議席を維持してきた執行委員会に再び選出され、また今後2年間、執行委員会の副議長を務めることとなりました。ユネスコ総会下部機関の一つである「国際コミュニケーション開発計画(IPDC)」議長にも選出されました。

加盟75周年を機にユネスコへのコミットメントを新たにしつつ、教育、科学、文化、コミュニケーション・情報などユネスコの活動全般において、日本外交を積極的に展開してまいります。

ご理解、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2026年1月5日
ユネスコ日本政府代表部
特命全権大使 加納雄大